早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	伊地知拓杜(いぢちたくと)
所属・資格(※学生は課程・	
学年を記載。卒業生・修了生は	修士課程1年
卒業・修了年月も記載)	
発表年月	2025 年 9月
または事業開催年月	2020 + 9 73
発表学会・大会	日本建築学会大会(九州)
または事業名・開催場所	日本建業子云入云 (ル州)
発表者(※学会発表の場合	
のみ記載、共同発表者の氏	伊地知拓杜、伊丹弘美、樋口貴彦、和田浩一
名も記載すること)	
発表題目(※学会発表の場	利用実態に基づく都市型サウナの価値探索
合のみ記載)	

発表・活動・開催の概要と成果(学会発表の場合、抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)

調査方法

インタビュー調査、スクリーニング調査(3000人)、Web アンケート本調査を実施 利用者を利用頻度によって4層(ヘビー層、レギュラー層、ミディアム層、ライト層)に分類

主な発見

利用目的の違い

ヘビー層:家族や恋人とのコミュニケーションや気分転換が目的

ライト層:一人で健康増進やダイエットが目的

利用頻度が高まるほど、社会的価値や経験的価値を重視する傾向

施設の選好

全層でスーパー銭湯付属サウナと公衆浴場付属サウナが支持され、都市型サウナの標準といえる ヘビー層は高級会員制サウナも利用しつつ、日常的には通い慣れた仲間とコミュニケーションが図れるサウナを希望

求める付加価値

ヘビー層:音楽・バー(コミュニケーション環境)

ライト層:カフェ・スポーツ観戦 (別用途の付属環境)

品質への期待

利用頻度が高いユーザーほどサウナ体験の質や環境を重視し、低いユーザーほど実用的な価値や利便性を重視する傾向が明らかになりました。

※無断転載禁止